

創新会会派視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

令和5年2月10日提出

1. 視察概要

会派名	創新会
視察者名	佐藤仁一郎、伊勢健一、佐藤弘樹、早坂憂、石田政博
日時	令和5年1月19日(木)13:30~15:00
視察先	まちなの駅 新・鹿沼宿(鹿沼市)
出席者 (説明者)	鹿沼市議会議長 大島久幸 氏 鹿沼市経済部観光交流課 課長 神山悦雄 氏 まちなの駅新・鹿沼宿 駅長 坂入弘泰 氏 一般社団法人鹿沼市観光協会 主任 宇賀神浩章 氏 鹿沼市経済部観光交流課観光施設係 主事 根本智之 氏 鹿沼市議会事務局議事課 庶務係長 安生浩晃 氏

2. 視察内容

視察項目	「まちなの駅 新・鹿沼宿について」
視察内容	<p>・鹿沼市の概況</p> <p>鹿沼市は栃木県の中心部からやや西南に位置し、首都東京から約 100 km、県都宇都宮市の西に接しており、人口約 9 万 3 千人、面積は約 490 km²の都市である。</p> <p>・事業内容</p> <p>まちなの駅新・鹿沼宿は、「観光案内・情報発信機能」「食機能」「トイレ休憩」「待合機能」「物販機能」等を有する複合施設である。これら各種機能提供者を個別に設定した上で、運営・経営の戦略や商品展開の方針、販売促進イベントの企画立案等の決定を行う運営協議会を設置し、利用者はもとより参画する全ての人が高い満足度を得られるような運営を目指している。</p> <p>施設には観光案内を担う場所の他、軽食が食べられるスペース、名物の鹿沼そばが食べられるスペース、そして直売施設が設置されている。観光案内は鹿沼市の観光協会が、軽食は地元の商業者の団体であるスクラム 10 が、そば店は鹿沼そば振興会が、そして直売施設はJAかみつがそれぞれ担当し、全ての施設が多くの人で賑わっていた。</p> <p>新・鹿沼宿は、元々大型商業施設跡地等の利活用を目的に整備された施設であった。この場所は市民や市外から訪れる人々の交通、観光、文化や産業などの拠点であった事、伝統の秋まつりが開催される地域の中心地である事、その様な理由から活用を望む声が多くあり、以前から力を入れてきた「まちなの駅」事業の新拠点を形成するため、駐車場機能・交通結節点機能・広場機能・総合案内機能・観光機能を有する施設を整備した。</p> <p>現在、市内のまちなの駅は 102 箇所となり、まちなの駅ネットワークかめまとして連携を強化しながら、日々各駅長が楽しみながら地域の PR を行っている。ネットワークへの勧誘</p>
【質疑応答】	

は一切なく縛りを設けずに、加入したい人や地域を元気にしたい人達が自主的に加盟して活動するスタイルのため、これまでトラブルもほぼ無く運営されている。参加する全ての人達が、自らの地域のため、お客さんのために、そして自分達のために汗をかきながら一生懸命工夫をされている姿が印象的で、まさに市民協働の運営と自主的な取り組みが同施設の人気の所以と感じた。

〈質疑応答〉※事前質問・回答内容は別紙

問 まちの駅に着目したそもそものキッカケは。

答 一番最初は市が主体で動いてきた。勧誘は一切せずに募集をかけ、いつ参加してもいい、いつ辞めてもいいというスタンスで始めた。当初に 70 駅程が集まってスタート出来た事は非常に大きかったと感じる。

問 市内の団体で、商工会議所や各既存の団体等からマイナス意見は無かったのか。

答 基本的に無かった。縛りが無く、それぞれが希望して入って頂いた形が良かったと思う。

問 まちの駅のネットワーク全体を繋ぐ取り組みは。

答 市が常に接点を持って活動している。周年行事やマルシェ、スタンプラリーなど、本当に様々な企画と一緒に進めていること自体が繋がりを強くしていると感じている。

問 商工会議所独自の活動もあるのか。

答 歳末の売り出し等が行われている他、いわゆる「プレミアムつき商品券」発行事業も好評で、定期的に行われている。

問 鹿沼宿が事務局を担っているのが結束の大きな役割では無いか。

答 その部分は大きいと思う。情報発信と収集の要であり、周遊の起点として大切な場所ともなっている。

問 来場者の内訳などの分析は。

答 過去のアンケートでは、県内の市外からが 58%だった。しかし、平日のアンケートだったため、土日では違うと考えている。恐らく感覚としては、土日は県外からが大半を占めていると感じるが、ダムカード配布の効果もある。

問 売り上げの内訳は。

答 直売施設の比率が大きく、令和 3 年の売り上げ 4.3 億円のうち 3.5 億円が直売施設である。手数料が 15%と低く、物も新鮮で安い事が理由と考えている。また、この施設で必ず野菜を購入するという方が数多くいて有難い。

問 防災機能はどうか。

答 避難所として指定はされていないが、広場の一部が貯水施設となっており、給水所として利用が出来る。

問 ニラそばのルーツは。

答 当地はその昔大変貧しい地域であったため、特産品のそばを食べる時に様々な野菜を入れてかさ増しをして食べていた様だ。その中で、特に相性が良かったニラが残ったと言われている。鹿沼そばとして認定される条件は大変厳しく、打ち方や切り方等で毎年審査が行われている。ニラそばは地元のソウルフード的な位置付けである。

	<p>問 電気料金の値上げがされる中、イルミネーションの経費は大変ではないか。</p> <p>答 LEDを導入しているため、3ヶ月で4~5万円程度で済んでいる。また、12月の土日は1日500人程が訪れていたため、イルミネーションは頑張っ続けてたい。</p>
<p>考 察</p> <p>【所感・課題 ・提言等】</p>	<p>今回の視察では、関わっている全ての方々が生き生きしていた他、まちの駅に関わっている方々のお話を聞いても、皆が楽しんで協力をし、一人でも多くの方に鹿沼を訪れて欲しいと願っている姿が印象的で、自らが率先して動く姿に感銘を受けた。</p> <p>更に、「I♥かぬま」というロゴが入ったTシャツを職員の方が着ており、プライベートでもそれを着ている方が多いという話からも、関わる一人一人が地元を心から愛している事がヒシヒシと伝わってきた。</p> <p>また、「まちの駅ネットワークかぬま」に参加しているお店の方々一人一人が、地域を盛り上げるために自分たちは何が出来るだろうという想いを持ち、積極的に関わっている事から見ても、多くの来訪者がいる事は必然とも取れた。大崎市もこの感覚を積極的に見習うべきと強く感じる視察内容であった。</p> <p>これらの事を参考にし、地域活性化における新たな提言が出来る様に引き続き努めて参りたい。</p>

以上

創新会会派視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書
令和5年2月10日提出

1. 視察概要

会派名	創新会
視察者名	佐藤仁一郎、伊勢建一、佐藤弘樹、早坂憂、石田政博
日時	令和5年1月20日(金)10:00~11:30
視察先	宇都宮市役所
出席者(説明者)	宇都宮市議会 副議長 舟本肇 氏 宇都宮市議会事務局政策調査課政策調査グループ 主任書記 中村駿介 氏 宇都宮市建設部道路建設課サイクルシティ推進グループ 係長 高瀬誠司 氏 宇都宮市建設部道路保全課管理調整グループ 係長 瀬口剛嗣 氏 宇都宮市建設部道路建設課サイクルシティ推進グループ 主任 野中裕介 氏

2. 視察内容

視察項目	「自転車のまち宇都宮について」
視察内容	1 宇都宮市の自転車を取巻く環境 平坦地、雨量が比較的少ない、充実した道路環境整備(3環状・12砲車道路) 2 自転車スポーツが盛んなまち ジャパンカップサイクルロードレース開催(日本唯一 UCI 認定ロードレース) 3 プロサイクルロードレースチーム「宇都宮ブリュツェン」の存在 平成20年10月、日本初“日本初地域密着型”チーム発足、自転車の普及に尽力 4「自転車利用・活用基本計画」の策定(H15.3月) 交通渋滞、地球環境保全意識高揚、高齢化社会の進展 5「自転車のまち推進計画」へ進展 【質疑応答】 ハード面の整備・LRTの導入を踏まえた公共交通との連携 6「第2次自転車の町推進計画」へ移行 サイクルツーリズム・サイクルスポーツを活用し、自転車で「働く・学ぶ」「住う」「憩う・楽しむ」宇都宮の実現 7 事業展開 自転車走行空間整備(専用通行帯や矢羽型路面表示による事故防止環境整備) サイクリングロード・ルート路線整備(サイクルツーリズムによる観光地連携) 公共交通連携プロジェクト(LRT・バス、停留所付近への駐輪場整備、レンタサイクル整備とICカード導入) 8 レンタサイクルの適正な管理及びシェアサイクル化 9 学校・プロスポーツチーム、民間企業と連携した交通安全教室開催 「子ども自転車免許事業」・「スクエアード・ストレイト方式の安全教室」実施 10 企業と連携した自転車通勤の促進 自転車の環境負荷低減や健康増進、渋滞緩和など効果の周知・啓発(走行距離による健康ポイント付与) 11 広域モデルルート検討・設定と市内観光地周遊促進 12 宮サイクルステーションの充実 「自転車にまち」の拠点として指定管理者と連携し機能強化・利用者ニーズに対応 13 自転車のまち PR プロジェクト TV・ラジオ・SNS などメディア活用による認知度向上 〈質疑応答〉 問 自転車のまち宇都宮」に取り組まれた背景と経緯は。

	<p>答 日本初の“地域密着型”プロサイクルロードレースチーム「宇都宮ブリッツェン」が誕生し自転車の普及に尽力されてきた事が大きい。また、都市部での自動車交通の渋滞悪化、地球環境保全意識の高まり、高齢化社会の進展等の背景があった。</p> <p>問 自転車の駅内容と利用状況は。</p> <p>答 H23 から開始し、サイクリストが気軽に利用出来る施設として、駐輪ラック、パンク修理が出来る工具貸出、休憩、トイレなど、既存施設の活用でコンビニを含む 64 か所に設置している。</p> <p>問 宮サイクルステーションの内容と利用状況は。</p> <p>答 H22 に開設し、自転車の魅力発信、利用促進、快適な移動手段及び休憩場所の提供を目的とした利用者の利便に供する施設で、指定管理制度で運営している。なお、H29 年に 5,200 人いた利用者。も R1 からのコロナ禍で減少したが、R4 には 4,500 人に回復した。減少はジャパンカップ中止も影響したと考えている。</p> <p>問 レンタサイクルの稼働状況と課題は。</p> <p>答 目的が放置自転車の有効活用から開始し、H7 年度には 7,000 台稼働したが、現在は 680 台まで減少している。また、H17 年度からレンタサイクル有料化(100 円/1 回)を実施し、H23 からは電動アシスト自転車を導入した。なお、貸出場所も 7 か所に増設(現在 8 か所)し、普通自転車 122 台、電動自転車 55 台、利用率 69%の状況である。</p> <p>課題としては、乗り捨て可能なため、場所によって利用状況に差があり、在庫のばらつきが出る事と、電子決済への対応が遅れている事、さらに高齢者利用の課題もある。</p> <p>問 観光としての効果は。</p> <p>答 統計は無いが、宇都宮自転車マップや広域マップ作成し配布している。なお、餃子マップを併せて掲載し、毎年 4,000 部を作成しているが好評である。</p> <p>問 市職員並びに市民団体等での自転車利用の取組は。</p> <p>答 数値は無いが、職員の自転車利用にあたり、市役所近隣に 6 か所の駐輪場を整備し活用されている。なお、宇都宮ブリッツェンの選手が市職員にいます。</p> <p>問 2019 年 SDGs 未来都市に選定されているが、現状の取り組みはどうか。</p> <p>答 全ての人に健康と福祉、住み続けられるまちづくり、気候変動の具体的施策の 3 項目に該当しているが、全体的な取りまとめは別所管で目標と到達点については把握出来ていない。ただし、環境保全、健康意識、カーボンニュートラル等に取り組んでいる。</p> <p>問 SNS の活用について、行政としてどの様に進めているか。</p> <p>答 所管は広報公聴課だが、フェイスブック、ツイッターを活用し、全国放送の TV コマーシャルも実施中である。</p>
<p>考 察</p> <p>【所感・課題・提言等】</p>	<p>視察の着目点として、本市が取り組んでいる陸羽東線における課題を踏まえ 2 次交通利用と言う想定で臨んだところもあったが、別な観点から気づきがあった。</p> <p>大崎市においても、古川工業高校のロードレースは好成績を残していた記憶があり、また岩出山以南では、地形的にも平坦でルート確保が出来そうであり、江合川・鳴瀬川沿岸などはサイクリングロードに適した環境でもあるので、観光・健康増進・SDGs・世界農業遺産に絡めた横軸連携の取り組みの可能性を感じた。</p> <p>また、鉄道の二次交通としての観点では、視察先の様な民間協力企業が見当たらない大崎市としては厳しい現状かと思うが、旧市町単位で想定すると、それぞれに観光・健康・地域内連携の起爆剤になり得ると考えられる。試験的にでも、中心市街地等(古川駅～市役所・道の駅や観光地、田尻・岩出山・松山・鹿島台地域等)で実践してみる価値はあると感じたので、庁内連携での構想を期待したい。</p> <p>なお、ハード整備から始めて現在まで、宇都宮市であっても、H15 年から 20 年を要しているの、倣って進めても時間のかかる事業となる可能性はあるが、本日視察した矢板市(視察目的はスポーツツーリズムであったが)に於いても、サイクル利活用の一面を伺えたことから、自然環境の備わった本市にとっても十分に検討・実施する必要性を感じる内容であった。</p>

創新会会派視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書
令和5年2月10日提出

1. 視察概要

会派名	創新会
視察者名	佐藤仁一郎、伊勢健一、佐藤弘樹、早坂憂、石田政博
日時	令和5年1月20日(金)13:00~14:30
視察先	矢板市役所
出席者(説明者)	矢板市議会 議長 今井勝巳 氏 矢板市経済建設部商工観光課観光スポーツツーリズム担当 GL 課長補佐 斎藤厚夫 氏 矢板市議会事務局 事務局長 薄井勉 氏 矢板市議会事務局 主査 佐藤晶昭 氏

2. 視察内容

視察項目	「スポーツツーリズムの推進について」
視察内容	○矢板市スポーツツーリズム推進事業について 矢板市は、日光、那須、宇都宮の中間に位置し、通過点となっているが「通過点」から「目的地、滞在地」への転換の必要性があった。また、インターチェンジ、JRの駅、国道4号線など交通アクセスが優れていること、サッカーの強豪チームの存在、とちぎフットボールセンターの誘致成功、アウトドアスポーツが盛んなこともあり、スポーツを目的とする観光スタイルであるスポーツツーリズムを展開している。 平成28年に日本スポーツツーリズム推進機構に加盟し、地域おこし協力隊を任用、矢板市スポーツツーリズム推進協議会を設立し取り組みを行なっている。市の基本方針として、スポーツを通じた誘客により交流人口の拡大を図り、経済波及効果の拡大を図る取り組みを行なっている。 現在の取り組みの中での課題としては、スポーツ施設の老朽化、スポーツシステムの予約システムが無いこと(R1 導入済み)、宿泊施設の稼働率が(平均で7~8割)不足気味、経済波及効果が見えないなどの課題も見えてきている。 また、スポーツ交流人口は平成29年概算で15万人、経済波及効果は15億程度(ゴルフ場を除くと1億4千万円程度)である。R4年度の活動と今後の展望としては、スポーツ交流人口は着実に増加してきており、経済波及効果を今後も追求していく。合宿など宿泊を伴う誘客を強化し、さらには観光関連事業(アウトドアツアーの開発や武道ツーリズムによる誘客策を検討している。
【質疑応答】	
考察	スポーツを産業の観点から、経済効果も含めて検証し政策展開を行なっている事は、生涯学習という教育委員会的観点のみならず、産業として捉えていくという視点が、本市においても、新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、今後のアフターコロナを見据えた中で、観光も踏まえて政策を展開する事は有益であると考え。 特に、武道ツーリズムについては、海外からのインバウンドも考えた場合、本市では、松山地域にある日本刀等とも連携し、誘客に繋げていく事も可能であると考え。 また、スポーツ振興について、教育委員会の所管であるという狭い視野に陥ることなく、産業経済部も含めて、教育委員会と横断的に連携し政策展開を行う事が本市全体への活性化にも繋がるため、今後の政策提案に活かして参りたい。
【所感・課題・提言等】	

以上